

研究のまとめ



学校教育目標

心豊かに、たくましく生きる子の育成

—学校を核にし、地域の子どもは地域で育てる—

千葉県学校教育推進計画

<目指すべき子どもの姿>

夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども

<教育目標>

自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ

これまでの研究および児童の実態

長年にわたって「かかわり合い（もの・人・自分）」をテーマに研究してきた。

→○多くの子が課題に対して、自分の考えをもつことができる。

△友達の考えに対して、意見を言える子は少ない。

△自分で問題をもつことができる児童が少ない。

研究主題

進んで問題を見つけ解決しようとする子どもの育成

目指す子どもの姿

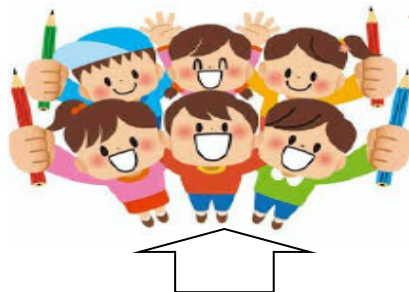
目を輝かせる子ども <Interest>

おや？何だろう？

どうしてこうなるの？

あれ？おかしいな？
今までと違う？

見て！すごい！
もっとやりたい！



追究し続ける子ども <Investigate>

こうしたらどうなるかな？
～したら～になるかも！

自分の考えと違う(同じ)！
そういう考えもあるか！

もっと知りたいな！
次は自分でやってみよう！

学習してよかったな！
学んだことが使えるぞ！

研究の視点

視点1

見いだすかかわり合い

視点2

深めるかかわり合い

本校は、子どもが自ら問題を見付け、考え、解決していく力を育てることを重視している。また、「もの・人・自分とのかかわり合い」を通して学びを深める教育を研究の柱としてきた。コロナ禍以降、ICTの活用や情報環境の変化が進む中で、効率的な学習の利点を生かしつつも、対話や試行錯誤を通して考えを磨く学びの重要性を再認識している。

本年度は、「かかわり合い」の中で問題を見付け、解決し、さらに新たな問題を見いだしていく学びの循環を目指す。子どもが事物や現象を観察し、自分の考えを表現し合い、友達の考えと比べながら修正・深化させることで、根拠をもった思考力を育成する。こうした学びの積み重ねが、深い理解と新たな問題の発見につながり、主体的に学び続ける子どもの育成に寄与すると考える。

視点について

主題を踏まえ、目指す子どもの姿を、「疑問や問題意識をもつ姿」「思いや考えをもつ姿」「計画し実行する姿」「さらなる疑問や問題意識をもつ姿」とした。これらの姿の実現に向けて、研究の視点を以下のように設定した。

視点1 見いだすかかわり合い

見いだすかかわり合いとは、

- ①問題を見つけるかかわり合い・新たな問題を見いだすかかわり合い
- ②考えの差異や共通点を見いだすかかわり合い
- ③価値を見いだすかかわり合い

などである。

①の問題を見つけたたり新たな問題を見いだしたりするためには、何より事物・現象への興味が大切になる。また、問題を自分事として捉えるためには、学ぶことへの必要感も重要である。あるいは、自分が分からないことに出合ったときや、自分と異なる考えに出合ったときに、「分かるようになりたい」「どちらが真実なのか知りたい」といった学ぶ意欲が生まれてくると考える。そこで、身近な事象を取り入れたり、豊富な教材を用意したりするなどの「ものとかかわり合い」や、対立する考えをじっくりと話し合うなどの「人とかかわり合い」を工夫していく。

②の考えの差異や共通点を見いだすためには、話し合いの観点が明確であることや、正しいか正しくないかに着目するのではなく科学的な思考に基づく話し合いが行われなければならない。また、活動の中で自分の考えを振り返り、加筆したり修正したりする時間を設けることも大切だろう。このように、「人とかかわり合い」や「自分とかかわり合い」の工夫を通して行っていく。

③の価値を見いだすことの中には、「学ぶことの価値」「自分の考えの価値」「得た知識の価値」などがある。子どもが「学びたい。」「学んでよかった。」「自分の考えは、とても大事なものだ。」「学んだことは、こんなことに役立つんだ。」と実感するためには、自然や科学の不思議さに触れたり、活動の中で人から認められたり、考察や振り返りの場面で得た知識の有用性に気付いたりすることが重要だと考える。そのために、「もの・人・自分とかかわり合い」を工夫していく。

視点2 深めるかかわり合い

深めるかかわり合いとは、

- ①問題に対する考えや解決方法を科学的に捉えるかかわり合い
- ②知識をつなげるかかわり合い
- ③自分の成長を実感するかかわり合い

などである。

①の問題に対する考えや解決方法を科学的に捉えるためには、「実証性・再現性・客観性」を教師も子どもも常に意識しなければならない。考えや解決方法が科学的であるか、教師と子ども、子ども同士で吟味することで考えが深まっていく。このように「人とかかわり合い」の工夫を通して行っていく。

②の知識をつなげるためには、得た知識とこれまでの知識、あるいは得た知識と生活を結び付けることが大切である。そうすることで知識が深まっていく。そのためには、観点を明確にして振り返りを行ったり、生活の中の事象と比べたりすることなどが効果的であるだろう。このように「自分とかかわり合い」や「ものとかかわり合い」の工夫を通して行っていく。

③の自分の成長を実感するためには、学習前後の自分の変化を自覚できたり、できなかったことができるようになったなどの満足感を得たりすることが重要である。日々の学習での振り返りを積み重ねていったり、ポートフォリオなどで学習の軌跡を分かるようにしたりすることで、自分の成長に気づき、自分を深めることができる。このように「自分とかかわり合い」の工夫を通して行っていく。

視点1 見いだすかかわり合い

- ①問題を見つけるかかわり合い
新たに問題を見いだすかかわり合い
- ②考えの違いを見いだすかかわり合い
- ③価値を見いだすかかわり合い

	もの	人	自分
①	○	○	
②		○	○
③	○	○	○

★目を輝かせる子ども

=Interest

視点2 深めるかかわり合い

- ①問題を対する考えや解決方法を科学的に捉えるかかわり合い
- ②知識をつなげるかかわり合い
- ③自分の成長に気付くかかわり合い

	もの	人	自分
①	○	○	
②		○	○
③		○	○

★追究し続ける子ども

=Investigate